

提 言 書

可部のまちづくり構想

**いま可部(安佐北)のまちは
変わらなくてはいけない**

平成26年7月24日

可部地域町内会自治会連絡協議会

これからの可部のまちづくりは！《可部のまちづくり構想》

“人が集まるまちは 発展の波が よってくる”

これを実践するには、可部の「まち」の都市機能の充実、地域の中心的機能の復活と活性化が不可欠である。

その思いは

- ①地域に人が増えること
- ②よそから人がきて住みつくこと
- ③みんなが住みやすくなること

活性化された可部のまちの結果として

- ④可部のまちに住んでよかった
- ⑤可部のまちに行きたい、来てよかった
- ⑥可部のまちの良さを知りたい、みんなに教えよう

このような可部のまちでありたい

(背景)

現在進められている「JR可部線電化延伸」と「安佐市民病院建替」を起爆剤として、都市機能の充実、地域の中心的機能の復活をし、可部の町の活性化を図る。さらには人口の減少、高齢化社会が進展していく状況の中で、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性を生かしたまちづくりを行う。
住んで良かった、住んでみたい、行ってみたい可部のまちにする。

《可部のまちづくり構想》

～駅から“1マイル”のまちづくり～に挑戦する。

(1マイル=約1.6キロメートル)

【まちづくりの目標と実現するための取組】

1 人口減少に歯止めをかけ、周辺自治体の受皿としての存在の実現

可部のまちは良質な水に恵まれ、食品などのものづくりが盛んに行われ、可部の発展を支えてきた。これらの産業を基盤に、広島市全体から、また周辺自治体からも人が集う「まち」をめざす。

- 中島地区、荒下地区ともに賑わいのあるまちづくりの推進
- 周辺自治体住民も利用可能な新たな文化複合施設の整備
- 神楽等をテーマとした周辺自治体と連携した活動、イベントの充実
- 若者が集う商業施設等の誘致・充実
- 可部線の利便性向上
- 小中一貫校の設置、誘致
- 可部高校、文教女子高校、広島中等教育学校のそれぞれの特色を生かし、3校協同による学術文化研究や人材育成の推進
- 農林業振興を支援する拠点の整備
- 経済団体と協力した雇用の促進

2 広島市北部の拠点としての「まちづくり」

かつては「可部ジャングル温泉」もあり、可部町内で飲食の場、ビジネス・観光のための宿泊の場として賑わいをみせていた。活性化のためには、周辺から人が訪れやすくなる仕掛けが必要である。

可部が良くなることは、安佐北区全体が良くなることにつながる。

- 安佐北区への来訪者が飲食・宿泊できる宿泊施設の誘致
- 旧街道、街並みの保存支援（古民家の活用）
- 福王寺等の歴史を生かした観光資源の開発
- 太田川などの豊かな自然を生かしたスポーツ・観光資源の開発
- 今行われている礼大祭の充実・PR
- 地域の特色を生かした整備・PR
 - ・「柳瀬」地域を中心としての“水辺ゾーン”、親水公園の整備
 - ・「南原」地域を“山岳登山ふれあいゾーン”、
 - ・福王寺山、高松山を中心としての“登山道ゾーン”
- 川魚の栽培漁業と山藷育成による名産・名品の再生

3 安佐北区の中心としての「まちづくり」

安佐北区では、可部地区と高陽地区が地域拠点に位置付けられており、この2地区の拠点性の向上を中心に、白木地区、安佐地区を含めた安佐北区全体を視野に入れたまちづくりが必要である。

- 高陽、白木、安佐地区と連絡する道路網の整備
- 高陽、白木、安佐地区と連絡するバスを中心とした公共交通網の充実
- 高陽地区と可部地区を巡回するバスの導入
- 可部線と芸備線の接続及び可部線の複線化
- 可部地域内の巡回バスの導入
- 可部バイパスの4車線化の早期実現
- 第二太田川橋の新設

4 J Rの電化延伸を生かす「まちづくり」

J R可部線の電化延伸に合わせて、住民の生活利便性の向上を図る。

- 終点駅、中間駅の交通拠点としての整備（駅前広場、駐車場、駐輪場、パークアンドライド等）
- 終点駅へのサイクルターミナルと廃線敷を利用したサイクリングロードの整備。廃線を活用したトロッコの運行
- 荒下地区の開発の促進（集客施設等の誘致）
- 終点駅又は中間駅付近に延長保育可能な保育園や医療保育園の設置
- サイクルレーンの導入

5 安佐市民病院の建替えを「まちづくり」に生かす

安佐市民病院は市を代表する大規模な医療施設であり、この建替えに合わせて安佐北区の福祉、医療をめぐる環境を一層良くしていく。

- 急性期医療だけでない医療機能（緩和ケア[ホスピス]、リハ機能、健康診断など日々の健康管理や増進を支える機能等）の一層の充実
- 地域包括ケアシステムを支える拠点の整備
（住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムにより、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるまちづくり）
- 福祉系の大学の誘致

6 災害に強い「まちづくり」を目指す

安佐北区は災害が起こりやすい地形が多く、特に水害が懸念される。このため、可部地域を安心・安全な地域とするための対策に取り組む。

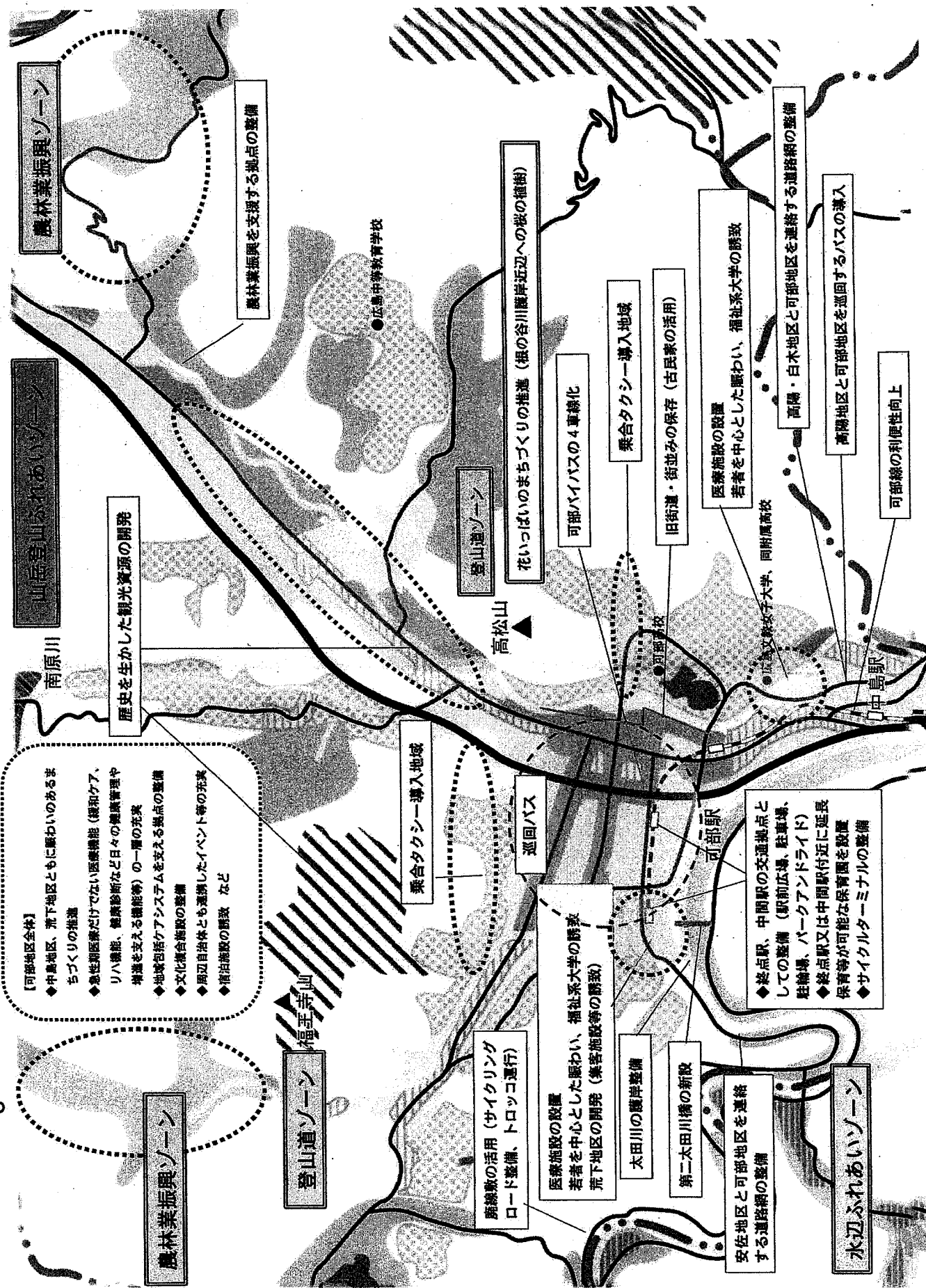
- 太田川、根の谷川の護岸整備による浸水対策の強化
- 堰堤の整備
- 急傾斜地対策の強化
- 安佐市民病院の防災拠点性の拡充

7 住みよい、住みたい。住んで良かった街の実現

可部地域が住みよい街となり、老若男女誰もが住みたい街になり、住んで良かったと思える街となるようにする。

- 団地とＪＲ駅やスーパーなどを連絡する乗合タクシー等の導入（亀山５丁目・可部６丁目地域、上原地域等）
- 高齢者地域支え合いモデル事業の可部地区での展開などによる福祉施策の充実
- 地域でお互いを支えあう体制づくり、町内会の加入率向上
- 男性も女性も安心して子育てと社会進出が両立できる行政支援
- 花いっぱいのもちづくりの推進（根の谷川護岸近辺に桜を植える）
- 根の谷川護岸の通称川東線の南伸
- 通学路などの危険箇所への防犯カメラの設置
- 区を中心としての区役所窓口の充実

可部のまちづくり構想



平成27年1月21日

広島市長 松井 一 實 様

可部地域町内会自治会連絡協議会

会 長 大 畠 正 彦



大林地区連合自治会

会 長 坊 聡 考

三入学区連合町内会（自治会）連絡協議会

会 長 山 下 豊 夫

三入東学区自治会・町内会連絡協議会

会 長 榎 照 義

可部学区町内会自治会連絡協議会

会 長 水 場 信 夫

可部南学区町内会自治会連絡協議会

会 長 松 井 修

亀山学区自治会・町内会連絡協議会

会 長 大 畠 正 彦

亀山南学区自治会連絡協議会

会 長 西 田 征 義

「可部のまちづくり構想」の追加提言について

可部地域町内会自治会連絡協議会（略称：可部地域自治連）では、可部地区の活性化を図ることを目的として、『可部のまちづくり構想「いま可部（安佐北）のまちは変わらなくてはいけない」』と題した提言書をまとめ、平成26年7月24日に広島市に提出し、その実現を求めました。

そうした中、昨年8月20日の豪雨災害により、可部地区でも6人もの尊い命が失われ、家屋が倒壊するなどの甚大な被害を受けました。地域住民は、悲しみを乗り越え、災害への不安な気持ちを抱きながらも、復旧、復興に向けて取り組んでいます。

可部地域自治連では、この豪雨災害によって、地域住民が安心して安全に暮らせることが、まちの活性化を図っていく上での大前提であることを改めて認識しました。

このため、先の提言書に掲げた「災害に強いまちづくりを目指す」ための取組内容を充実させることとし、災害対策に関する議論を深め、追加提言することになりました。

追加提言に当たっては、これまでに可部地区ではどのような災害に見舞われてきたのか、河川の氾濫や土砂災害などに対する防災対策はどのように進めていかれるのかなどについての理解を深めるとともに、アンケートを実施し、不安に感じていること、防災上必要な対策などを話し合いました。

可部地域自治連としては、こうした話し合いを通じて、地域のつながり、住民同士が相互に支えあうことの大切さを改めて認識し、今後も災害は起きるものという前提に立ち、自助・共助・公助の考え方の下に防災・減災の取組を進め、災害に強いまちづくりを進めていかなければならないと考えており、追加提言書は、こうしたまちづくりを進める上で必要と考える対策をとりまとめています。

対策の実現に当たっては、公助としての行政による早急な取組を求めていくとともに、可部地域自治連としても、7学区の連携を一層強化し、地域住民と力を合わせ、住民自らも自助、共助の取組を進めていきたいと考えています。

広島市におかれましては、先に提出した提言書とともに、この追加提言書を真摯に受け止めていただき、広島市において策定されている「平成26年8月20日豪雨災害復興まちづくりビジョン」の取組に加え、この提言に掲げる対策の実現に向け、最大限努力していただくようお願いいたします。

可部のまちづくり構想

災害に強いまちづくりを目指すための

追加提言書

平成27年1月15日

可部地域町内会自治会連絡協議会

可部のまちは、土砂災害危険箇所が多くあり、また、河川氾濫が繰り返されてきた歴史があるなど、災害被害を受けやすい地域であり、平成26年8月豪雨災害によって、地域住民の災害に対する不安が一層増している。

こうした不安を解消し、地域住民が安心して安全に暮らせるようにするためには、「災害に強いまちづくり」に向け、主に次のような対策を進める必要がある。

なお、住民の不安、求める対策の詳細は、別添のとおりである。

【災害に強いまちづくりに向けた主な対策】

今後も災害は起きるものという前提に立ち、自助・共助・公助の考え方の下、次に掲げる防災・減災の対策を進め、災害に強いまちづくりを進めていく必要がある。

1 太田川、根の谷川などの浸水対策の強化

- ① 太田川と根の谷川などの関連支川の整備計画を前倒しして実施
- ② 根の谷川の整備計画を見直し、上流から下流までの全域にわたって、護岸の嵩上げ・強化、河道の浚渫などを実施
- ③ 根の谷川と上原川とが合流する上原地区の内水氾濫対策を実施
- ④ 太田川と根の谷川の河川敷の樹木の伐採を実施

2 堰堤の整備と急傾斜地対策の強化

- ① 土砂災害危険箇所の状況調査と警戒区域の指定を早急に実施
- ② すべての土砂災害警戒区域における重厚な防護施設を整備
- ③ 土砂災害時に流出した土砂の集積場を地域内に確保
- ④ 災害復興が困難な複数の管理者が存在する山を林野庁が一体的に管理する体制を構築

3 安佐市民病院の防災拠点性の強化

- ① 広域的災害の発生を想定した医療救援施設としての機能を拡充
- ② 被災傷病者の大量発生に備えた広い受入スペースを確保
- ③ 災害発生時に人工透析患者や酸素吸入を要する患者など、医療的な配慮が必要な者を受け入れるための医療避難所を整備
- ④ 災害時に医療を提供し続けられる、強靱な建物、設備、電気などのライフラインを整備
- ⑤ ライフラインの途絶、交通遮断に対応するため、これらの機能が回復するまで持ちこたえられる食料や飲料水などの備蓄量を確保

- ⑥ 災害リスクの小さい立地への整備
- ⑦ エレベータの停止に備えるために病院敷地内に地上ヘリポートを設置

4 道路等のインフラの防災機能の強化

- ① 災害時に地域が孤立しないようにするために複数の迂回道路を整備、特に過疎化地域に対する日頃からの配慮（広域避難路の整備）
- ② 避難路として使用する私有地を行政の管理に移管
- ③ 排水ポンプの改善、排水路の拡張、定期的な清掃を実施
- ④ 地区ごとの液状化被害を検証し、ライフラインを中心に液状化対策を実施

5 安全な避難体制の強化

- ① 避難場所と地元が指定する一時避難場所を適切に設定
- ② 避難場所は、高齢者や車椅子使用者などの災害弱者も含め、住民が安全にアクセスできるよう、学区単位を基本に地域性などにも配慮して開所することとし、新たに亀山中学校、可部高等学校、可部公民館を生活避難場所に指定
- ③ 避難壕（シェルター）などの整備を検討するとともに、一時避難場所となる集会所がない町内会は、複数の町内会単位に1つでも集会所を整備
- ④ 防災サイレンを増設、改善（サイレン、光、音声での通知、遠隔操作の導入）、防災行政無線の感度の改善、電話や地域放送の利用などの対策を実施
- ⑤ 避難情報伝達の強化のため、住民の自治会への加入を促進。特に、マンション・アパートなどの集合住宅には、行政と地元自治会が合同で加入の働きかけを実施
- ⑥ 不法投棄に対する行政指導の徹底、投棄禁止看板・監視カメラの設置などの対策を実施

6 地域のつながり・共助による防災力の向上

地域の取組が円滑に進むよう、行政には支援などの配慮をお願いしたい。

- ① 近隣同士のつながり（向こう三軒両隣の関係）づくり
- ② 行政からの情報の共有化による防災意識づくり
- ③ 地域における防災リーダーの育成、防災ツールの見直しと、強化

7 住民の自助による防災力の向上

- ① 全市的に毎月第三水曜日を防災の日とし、家庭・学校・職場で防災に対しての話し合い、教育を実施
- ② 各家庭で日常的に防災用品を完備しておくよう、行政、地域の自主防災会が指導を実施

広島市への提言書

「交流」を中心とした白木地域のまちづくり

平成28年9月16日

白木町まちづくり推進協議会

白木地域のまちづくりに向けて

白木町は、広島市の北東境に位置し、白木山、神ノ倉山をはじめ多くの山々に囲まれ、全域が中山間地となっている。地域を南北に縦断する県道広島三次線は、広島都心部と県北の安芸高田市、三次市をつなぐ役割を果たしており、県道に沿って市街地が形成されているが、平成9年以降は、人口減少が続いている。

白木町では、都心への通勤者の住宅地域と広島市の農業の屋台骨を支える農業振興地域が共存しており、「住」と「農」が両立している。また、県道広島三次線沿いは多くの人が行き交う街道となっている。このように、白木町は、決して過疎化が進んでいるだけのまちではない。

高齢化が進んだ現状では人口維持そのものは難しいかもしれないが、今後は、「住」と「農」の共存により育んできたまちの魅力、交通の大動脈である県道広島三次線などを生かし、白木町の住民だけでなく、町外、特に都市に住む人々に白木町に来てもらうことにもっと目を向けたまちづくりを進めるべきある。

こうした思いから、白木町では、「交流するまち」を主なテーマとし、また、

- 1 地域外から人が集まるまちづくり
- 2 4地区の特長、魅力を活かしたまちづくり
- 3 若者が住みやすいまちづくり
- 4 安全・安心で楽しく住み良いまちづくり

を取組の柱として、まちづくりを進める。

白木地域での取組

1 地域外から人が集まるまちづくり

交流による地域の賑わいづくりを効果的に進めるためには、地域外からより多くの来訪者を受け入れ、何度も来てみたいと思われるまちづくりを進める必要がある。このため、都市部の住民をメインターゲットとした交流拠点を確保するとともに、様々な交流活動についてPRを行う。

特に、白木山や神ノ倉山公園は、都市部の住民が集う人気スポットとなっているが、魅力の維持・向上を図ることで更に多くの来訪者を呼び込むために、白木山の駐車場等の整備や神ノ倉山でのスカイスポーツ等と連携した大河原廃川敷の有効活用、神ノ倉山公園の維持管理に重点的に取り組む。

① 白木山の駐車場等の整備

白木山は多くの登山ルートを持つ人気のある山であり、いつでも登山者が訪れやすい環境を整える必要がある。特に、白木山周辺で発生している違法駐車を解消するため、広島市が地元住民から土地の提供（貸付）を受け、JR白木山駅登山口付近にトイレを備えた大型駐車場を整備する。

② 大河原廃川敷の有効活用

大河原廃川敷活用策検討委員会が取りまとめた活用策を踏まえ、パークゴルフの公認コース、スカイスポーツの体験場や着陸場、人工芝サッカーコート、管理棟、駐車場などを整備し、地元が主体的に運営していくことで、大河原廃川敷を交流の拠点として有効活用する。

③ 神ノ倉山公園の維持管理

地元住民が作り上げ大切に守り育ててきた神ノ倉山公園を、今後とも恒久的な憩いの場所とするため、樹木管理や剪定のための機械に係る管理費用や肥料の購入費用などについて必要最低限の行政支援を得ながら、引き続き、地元住民が主体となった維持管理を行う。

④ 市民農園の有効活用

園内や周辺で地域の特産品を販売するなど、三田市民農園や見張市民農園を多くの県道広島三次線利用者が立ち寄る場として有効活用する。

⑤ 芸備線各駅のホームと列車昇降口との段差解消

芸備線各駅のホームと列車昇降口との段差を解消することにより、障害者や高齢者など誰もが容易に白木町を訪れることのできる環境を整備する。

⑥ 神ノ倉山ふじまつり等のPRを強化（TV広報等）

さくらまつり（4月開催）やふじまつり（5月開催）のTV広報等を通じて、桜・ふじ・つつじといった神ノ倉山公園の春の魅力を広くPRし、井原地区等における交流人口の増加を図る。

⑦ 神ノ倉山・荒谷山をスカイスポーツ（パラグライダー・ハングライダー）のメッカとしてPR

スカイスポーツ（パラグライダー・ハングライダー）の離陸場・着陸場を有する神ノ倉山・荒谷山周辺が日本有数のフライトエリアであることを都市部の住民にPRし、愛好家団体による大会や体験イベントなどを通じて地域の活性化を図る。

2 4地区の特長、魅力を活かしたまちづくり

地域内外の住民同士の交流を増やすためには、4地区（井原、志屋、高南、三田）それぞれの特長や魅力を更に高めていく必要がある。このため、各地区のセールスポイントに精通した地元住民が自らまちづくり活動に参加することで、様々な交流活動を展開していく。

① 白木高校跡地の活用【高南地区】

平成24年3月に廃校となった白木高校の跡地について、スポーツ活動以外の用途でも十分な活用が図られるよう、大学等の研修施設としての利用、児童館や運動公園の整備など、地元の声を反映した抜本的な活用策を検討する。

② 中郡古道、湧水などの地域資源を活用した活動の推進 【中郡古道：井原・高南・三田地区、湧水：高南地区】

中郡古道沿線の見どころを紹介するエコツーリズムを開催したり、枋谷地区の湧水を引いた水くみ場を設置・管理するなど、住民同士が協力しながら様々な地域資源を活用することで、住民間の交流を促進する。

③ 農業体験活動や自然体験活動等の受入【井原地区】

井原地区などで農業体験や自然体験等の受入を実施し、都市部の若者が地域の人々との交流を通じて白木町の自然や文化、生活、人々の魅力に触れる機会を提供する。

④ 神楽などの伝統文化の継承【志屋地区】

志屋地区を拠点とする宮崎神楽団の活動や後継者育成を支援するなど、白木町の伝統文化を継承することで、将来にわたって文化的な魅力を維持する。

⑤ シャクヤクの里の活性化【高南地区】

桧山地区や正木地区で地元住民と都市住民が協働してシャクヤクの栽培や販売等に取り組み、シャクヤクを活用して地域の活性化を図る。

⑥ 芝桜による三篠川的美観向上【井原地区、三田地区】

地元住民が芝桜を三篠川の土手に植え育てることで、三篠川沿いの景観を向上させ、都市部等の住民を井原地区や三田地区などに呼び込む。

3 若者が住みやすいまちづくり

急激な人口減少を抑制するためには、若者が住みやすいと実感できるようなまちづくりを進めていく必要がある。このため、「住」と「農」が共存する白木町の特長を生かして、若手の新規就農者を支援するなど、就労環境や生活環境の充実に取り組む。

特に、有害鳥獣対策は、4地区に共通した喫緊の課題であり、若者の就農支援につながるだけでなく、安全・安心なまちづくりにも寄与することから、重点的に取り組む。

① 有害鳥獣対策

地元住民自らが設置する防護柵について、広島市が十分に資材を提供できるよう関連予算を拡充し、また、白木出張所で有害鳥獣に関する相談や申請を受け付け、地域に密着して捕獲・追い出し等を指導する日を週に1回程度設けることで、農作物等の被害を防止し、若者が就農しやすい環境を整備する。

② 新規就農者の受入

白木町では、新規就農に有利な葉物野菜の栽培が盛んであることから、白木町を新規就農者受入の重点地域に位置付け、農地を積極的に斡旋するとともに、栽培技術の習得等を支援する。

③ 上水道や下水道等のインフラ整備

上水道が整備されていない志屋小学校より西側の地区において、住戸の前まで配水管を布設するなど、上水道や下水道等のインフラを整備し、生活環境を向上させる。

④ 空き家の紹介など若手の新規就農者等の移住を支援

若手の新規就農者が営農場所付近に住宅を確保できるよう、地域が把握した白木町の空き家情報を就農希望者に発信するなど、若者を対象とした移住支援策を実施する。

⑤ 大学（広島文教女子大学等）やNPO等と連携したまちづくり活動の推進

小中学校の活動や地域行事などで、大学（広島文教女子大学等）やNPO等を受け入れ、連携したまちづくり活動を進めることで、地域の活性化を図る。

⑥ 寺子屋学習塾を通じた小・中学生と大学生とのつながり、地域を担う人材の育成

白木中学校で開催している大学生等のボランティアによる無料学習塾（寺小屋学習塾）に継続して取り組み、小・中学生と大学生とのつながりを深めつつ、学力アップにより地域を担う人材を育成することで、安心して子育てをすることができる環境を整える。

4 安全・安心で楽しく住み良いまちづくり

人口減少や少子・高齢化が進展する中でも、高齢者などが引き続き住み慣れた地域で安心して生活できるよう、生活交通の確保や見守り活動等を通じて、安全・安心で楽しく住み良いまちづくりを進めていく。

特に、柏木橋の架け替えや県道広島三次線・県道大林井原線の歩道整備・拡幅は、地域が長年抱える課題であるにも関わらず、解決に向けた大きな進展がないことから、重点的に取組を進める。

① 柏木橋の架け替え

老朽化した柏木橋は高南小学校の通学路にもなっており、幅員が狭く、降雨や降雪、路面凍結の際には歩行者の通行が非常に危険な状態になることから、早急に架け替えを行う。地権者の了解が取れないなどにより早期の架け替えが困難な場合には、歩行者専用の側道橋を設置することで、歩行者の安全を確保する。

② 県道広島三次線、県道大林井原線の歩道整備・拡幅等

児童や高齢者が安全に歩行できるよう、県道広島三次線（新宮～戸石、山根～見張、市川、三田など）の歩道整備を進める。また、県道大林井原線では、古屋などで歩道整備と2車線化のための拡幅を実施するとともに、頻発する交通事故を防止するため、全線を追い越し禁止にする。

③ 三篠川等の災害防止対策

三篠川、関川、河津川などの河川について、整備計画を住民へ周知し、護岸改修等を早期に実施するとともに、自治会連合会や自主防災会等と連携して、現状における危険度の開示やハザードマップの更新を行うなど、減災、免災の観点から、水害に強いまちづくりを進める。

④ 路線バスの利便性向上（安佐市民病院行きのバス便確保・増便）

バス路線の終点を荒下地区に変更するとともにバス便を増便することで、高齢者が安佐市民病院へ通院するための交通手段を確保するなど、路線バスの利便性向上を図り、誰もが安心して生活できる環境を整える。

⑤ 地域が主体となった生活交通の確保策の導入検討

自宅からバス停までの往復が困難な交通弱者等を支援するため、自家用自動車による有償運送や乗合タクシー等の導入など、地域が主体となった生活交通の確保策を検討し、実施に当たっては収支不足等について広島市からの支援を受ける。

⑥ 高齢者の見守り活動や買い物支援

地区社会福祉協議会などの地域団体が積極的に高齢者の見守り活動や買い物支援に取り組めるよう、広島市が実施する取組への補助制度について、手続きの簡素化等の見直しを進める。

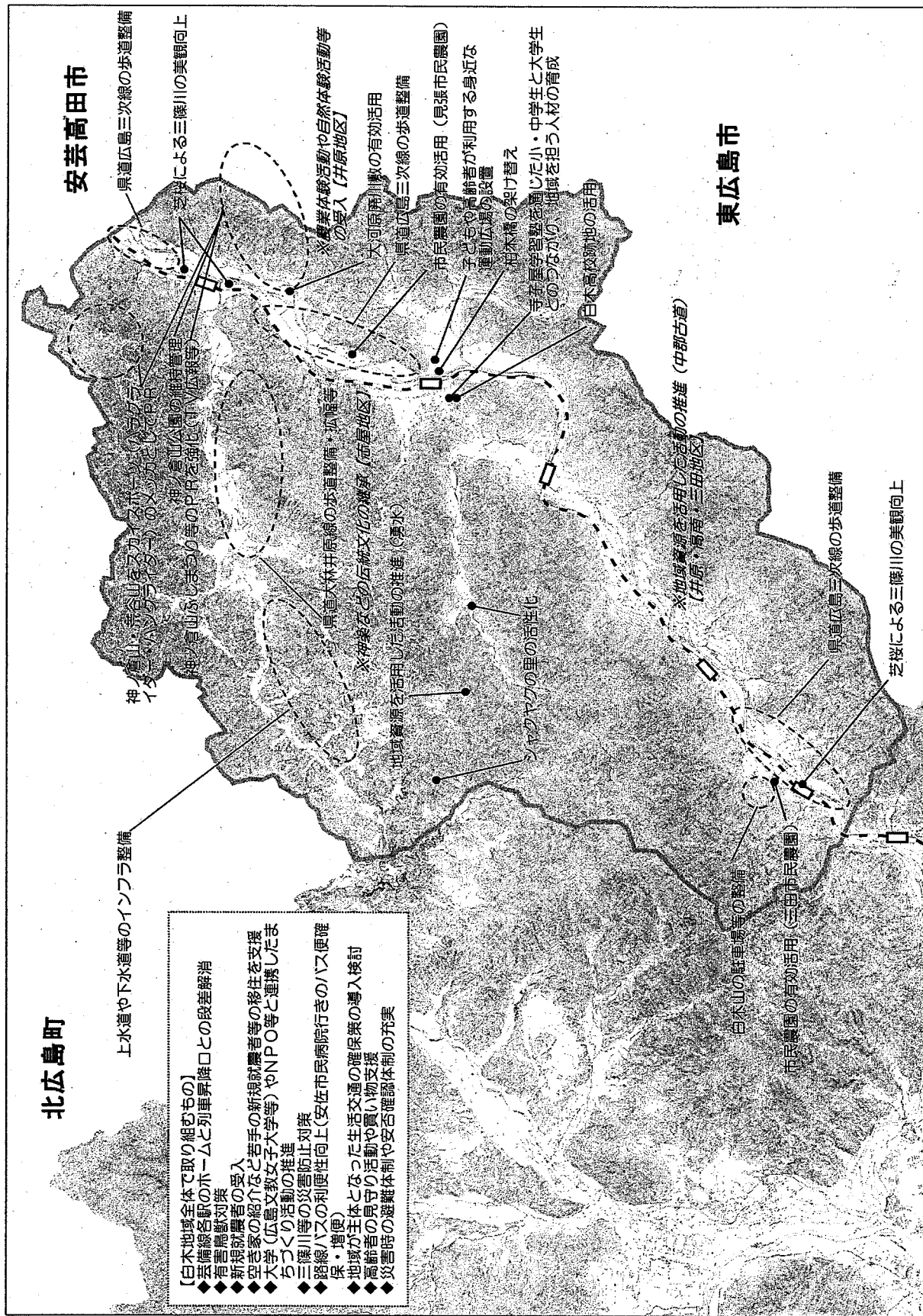
⑦ 災害時の避難体制や安否確認体制の充実

広島市が把握した災害弱者の状況等について、広島市からの情報提供を受け、民生委員や自治会、自主防災会等が連携して避難支援者を確保するなど、災害時の避難体制や安否確認体制を充実させることで、共助による地域防災力を高める。

⑧ 子どもや高齢者が利用する身近な運動広場の設置

高齢者の健康増進や子どもの体力向上を図るため、小越地区などに高齢者がランドゴルフなどの軽い運動を楽しむことができ、子どもが遊び場としても利用できる運動広場（ちびっこ広場、老人運動広場等）を整備する。

白木地域のまちづくりに向けた取組



高陽のまちづくりについて

3つのエリアが共存共栄するまちの実現に向けた提言書

平成28年9月

高陽地区町内会・自治会連絡協議会

《高陽の現状》

高陽は、太田川、三篠川、根谷川沿いの広島市東北部に位置し、昭和40年代以降の高度成長期に広島県住宅供給公社が大規模住宅団地を造成して以降は、広島市のベッドタウンとして発展してきた。

現在では、広島市都市計画マスタープランにおいて、可部と同じく「地域的な都市機能を担う拠点地区」に位置付けられており、可部よりも多くの人口を抱えている。

高陽は、

- ・住宅団地を中心とする地域
- ・中山間地を中心とする地域
- ・その間に挟まれた古くからある市街地の地域

の3つの地域に大別することができる。

住宅団地を中心とする地域では、商業機能が集積し、都市的生活を享受することができる。一方、中山間地を中心とする地域は、農山村としての性格を有している。

このように、高陽は地域によって、地形や特性が大きく異なっている。

また、全国的に少子高齢化が進む中、高陽でも人口減少や居住者の高齢化などが大きな課題となっている。

《高陽の取組》

人口減少に打ち克つためには、それぞれ地域の課題や特性に合わせた取組を進めていく必要があるが、特に、高陽では、地域によって都市機能の集積度合も大きく異なるため、地域全域の取組と並行して、3つの地域の活性化に取り組んでいく必要がある。

このため、高陽では「3つのエリアが共存共栄するまち」をまちづくりのテーマに掲げ、

- ・住宅団地エリアでは、いつまでも住みやすい住宅団地を、
 - ・古くからある街並みエリアでは、活気あふれる芸備線沿線を、
 - ・中山間地エリアでは、安心して暮らせる中山間地を、
- それぞれ目指した取組を進める。

また、高陽全域の取組として、日常生活を支える都市機能を強化し、拠点性の向上を図ることで、可部地域と同様、安佐北区の拠点地区としての役割を果たしていく。

1 高陽全域としての取組

目 標：安佐北区における拠点地区としての役割を果たすため、地域の都市機能を強化し、拠点性の向上を図る。

ポイント：まずは、都心や県北部、他地域とのネットワークを充実させることにより、高陽の拠点機能を高めることが、高陽だけでなく、安佐北区内外の住民の生活環境の向上につながることから、基幹道路（特に広島三次線）を整備する必要がある。基幹道路を整備して通勤環境等が向上すれば、高陽に新たに若者を呼び込む効果も期待できる。また、「地域的な都市機能を担う拠点地区」（都市計画マスタープラン）にふさわしいまちづくりを進めるため、公民館・出張所・文化ホール・図書館等の機能を兼ね備えた拠点施設を整備するとともに、高陽全体のまちづくりやイベント等について協議・実行する体制を確保する必要がある。

広島三次線の渋滞対策

高陽の3エリアを結び都心部へとつながる広島三次線は、高陽の交通アクセスを考える上で最も重要な路線であり、交差点改良や拡幅等を進めることで、交通渋滞の解消を図る。なお、広島三次線と広島中島線が合流する小河原口交差点付近では頻繁に交通渋滞が発生していること、また、中深川～上深川の区間ではJR芸備線の列車が中深川交差点付近の踏切を通過する際にひととき交通渋滞が発生していることから、特に、小河原口交差点と中深川交差点の改良工事を早急に進める。

高陽から可部バイパスに繋がる道路の新設（可部自動車学校付近～可部バイパス）

安佐北区のもう一つの拠点地区に位置付けられた可部とのつながりを強め、高陽と可部が相互に刺激し高め合うまちづくりを進めるため、根の谷川橋北詰から可部自動車学校付近を経由し可部バイパスへと接続する道路を新設し、可部方面へのアクセスの改善を図る。

深川福田線の整備

広島三次線と広島中島線は、中深川～上深川において路線が重複していることから、特に朝夕の通勤通学時間帯には渋滞が発生しており、また、広島中島線の広島東インターチェンジ付近で事故が発生した場合、他に替わる道路がないことから長時間の交通渋滞が発生している。このため、高陽の慢性的な渋滞を解消するとともに、高陽への企業進出を促進するため、かつて計画されていた深川と福田を結ぶ深川福田線の整備を進める。

スマートインターチェンジの整備

高陽では山陽自動車道が地域の東西を横断しているが、地域内にインターチェンジ等は設置されておらず、山陽自動車道がまちの活性化や都市機能の強化に直接つながっていない。このため、比較的低コストで導入が可能なスマートインターチェンジを落合地区に整備することで、地域外からの居住者や事業所等呼び込む。

中筋温品線の整備

市の環状道路として位置付けられていながら整備が遅れている中筋温品線について、中筋地区と口田地区を結ぶ橋りょうの新設工事を早急に進めることで、高陽から広島インターチェンジへのアクセス改善を図るとともに、引き続き中筋温品線の全線開通を早期に実現することで、広島三次線の渋滞を解消し、基幹道路の整備を契機としたまちづくりを進める。

拠点施設の整備（高陽公民館、高陽出張所、福祉会館、図書館等の合築施設）

昭和48年に旧耐震基準により建てられた高陽公民館は、老朽化が進んでおり、また、ホール（収容人数：200人）や駐車場（収容台数：27台）が狭く、敬老会などの地域行事に支障が出ていることから、隣接する高陽出張所との合築による建て替えを進める。なお、建て替え後の施設には、高陽や白木の住民が身近に利用できる文化ホール（収容人数：350人程度）、図書館等の機能を追加し、新たな高陽の拠点施設（駐車場収容台数：100台程度）として位置付け、地域コミュニティなどの更なる活性化を図るために活用する。

高陽まちづくり協議会の立ち上げ

高陽のまちづくりについて、高陽9学区の町内会連合会長や各種団体長等が協議・実行するため、高陽まちづくり協議会を立ち上げる。

高陽絆まつり実行委員会の立ち上げ

高陽の町内会連合会長や各種団体長で構成する高陽絆まつり実行委員会を立ち上げ、毎年夏に高陽絆まつりを開催するとともに、まつりの運営に参加する地元の中高生に高陽の歴史や特色などを活用した地域のにぎわいづくり等について指導することで、高陽全体の一体感を醸成し、若者の郷土愛を育む。

2 住宅団地エリアの取組

目 標：居住地としての良好な環境を活かし、いつまでも住み続けたいまちを作る。

ポイント：住宅団地エリアは住宅の区画や道路の配置、公園・広場の整備、街並み・景観など居住地として良好な住環境を有している。このため、高齢化が進む中でも住民が引き続き良好な環境の中で生活できるよう、交通施設等のバリアフリー化を進める必要がある。また、豊かな自然環境や地域資源等を活用して、住民が集い交流する場を創出することにより、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進める必要がある。

J R下深川駅への構内エレベーター（もしくはエスカレーター）の整備

J R下深川駅は、多くの高齢者（白木の住民を含む）が安佐市民病院へ通院するために利用しているが、改札口がプラットホームや深川側の接続道路から見て2階部分にあり、駅を利用するためには長く急な階段を上り下りする必要がある。このため、改札口とプラットホーム及び改札口と深川側接続道路の間にそれぞれエレベーター（もしくはエスカレーター）を整備し、全ての住民がJ R下深川駅を円滑に利用できる環境を整える。

J R安芸矢口駅のバリアフリー化

1日当たりの利用者数が三千人を超えるJ R安芸矢口駅は、改札口とプラットホームとの間が跨線橋でつながっているため、障害者や高齢者の利用に支障をきたしている。このため、跨線橋にエレベーターを設置するなど、J R安芸矢口駅のバリアフリー化を早急に進める。

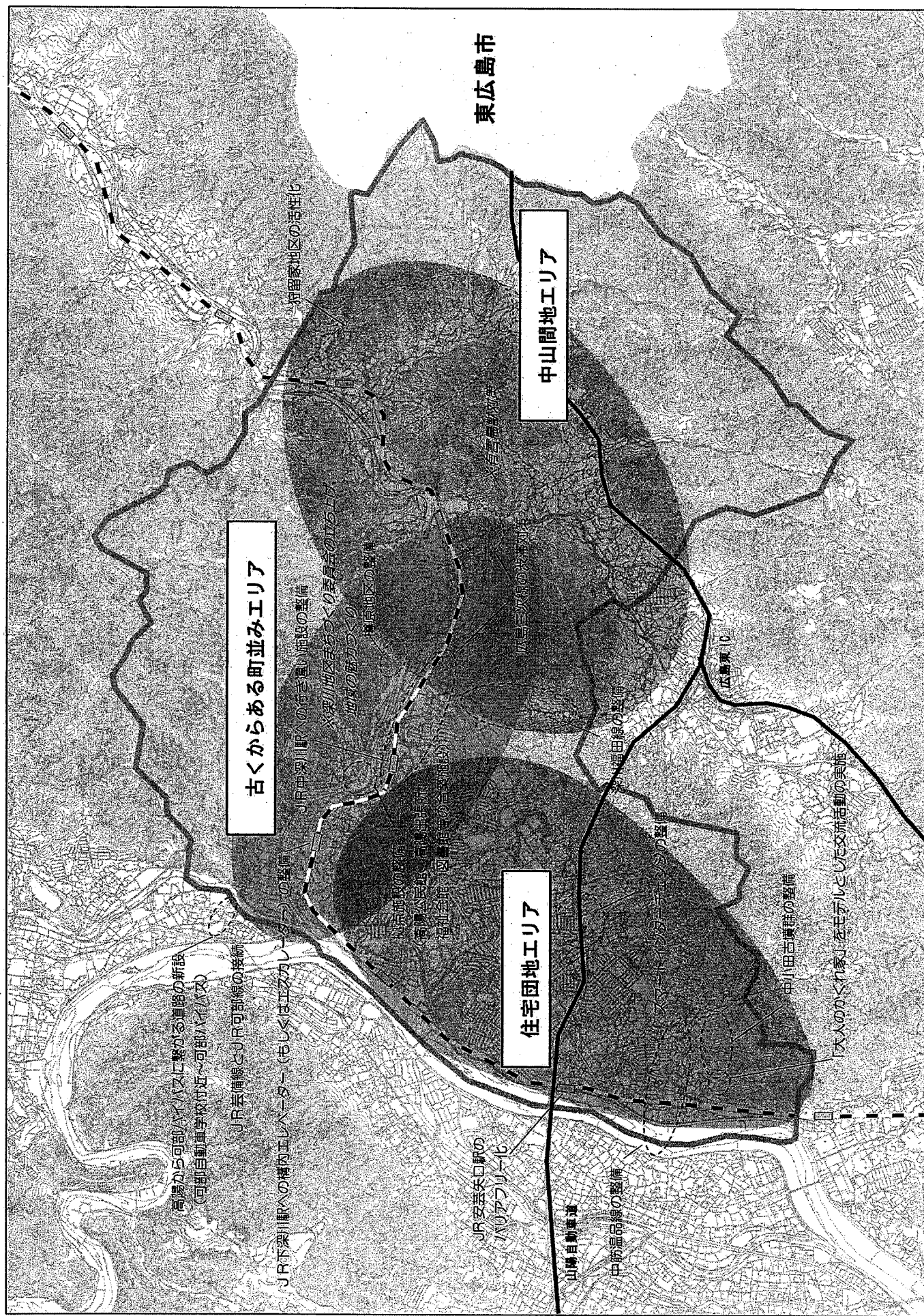
中小田古墳群の整備

中小田古墳群は、「卑弥呼の鏡」とも言われる三角縁神獣鏡が出土するなど、文化財として非常に高い価値を有していながら、西側斜面の防災工事等により整備が遅れている。このため、防災工事を早期に完了させ、古墳公園としての整備を進め、来訪者や住民が古墳と触れ合い楽しむことのできる場を提供する。

「大人のかくれ家」をモデルとした交流活動の実施

口田地区の「大人のかくれ家」をモデルとして、他の地区の里山などにおいても、幅広い世代が交流できる活動拠点を住民自らが整備し、コンサートやプレーパークなど様々な交流活動を展開することで、住民間等のつながりを深めるとともに、地域の魅力を内外に発信する。

高陽のまちづくりに向けた取組



“定住したいまち”の実現に向けて

～安佐地域のまちづくり提言書～

平成28年9月

安佐町自治会長連絡協議会

安佐地域のまちづくりの目標は 定住したいまち

安佐町は昭和30年に飯室、小河内、久地、鈴張、日浦の5つの村が合併して誕生し、昭和46年に広島市と合併した。

昭和50年代以降、住宅団地の開発や広島北インターチェンジがある有利性などから工場進出が進み、安佐町の人口は飛躍的に増加した。

太田川中流域の美しい景観や急峻な山や谷などの豊かな自然とベッドタウンが混在し、町内に様々な地域差を抱えながらも、旧村時代からの住民と住宅団地などの新たな住民が一緒にまちの発展を支えてきた。

こうした中、平成8年以降、安佐町の人口は減少が続き、若者の流出や高齢化に直面している。

しかし、安佐町は豊かな自然を身近に触れることができると同時に市街地への通勤圏内であり、子育てと仕事を両立できるライフスタイルを実現できる恵まれた環境にある。また、住民同士のつながりも強い。

私たちは、これらを生かし、これからの安佐町にとって何が大切か、何に取り組んでいくべきか、について話し合った。

仮に人口減少がやむを得ないにしても、住民が住み続けたいまちにしていける必要がある。安佐町から他の地域への流出を少しでも食い止めることが今一番大切ではないか。

それが私たちの強い思いであることから、まちづくりの目標として「定住したいまち」を掲げる。

【安佐地域のまちづくりに向けた取組項目】

I 交通アクセスの向上

- ・「定住したいまち」を実現するため、まずは、買い物や通院など日常生活面で感じる不便さを解消していく必要がある。
- ・安佐町では、多くの住民が買い物や通院で自家用車やバスを利用しているが、道路やバスの運行ルートなどに多くの課題があるため、交通アクセスの向上を優先的に進めていく必要がある。

1 可部方面への移動に直結する交通アクセス

- ・安佐町では、可部周辺のスーパーマーケットや医療機関を利用することが多いため、可部方面への交通アクセスを向上させることが最重要である。
- ・特に、自家用車を持たない住民や高齢者にとって、バスは必要不可欠な交通手段であり、各地区から可部まで直接乗り入れるバス便を確保する必要がある。
- ・また、国道191号は、小河内地区、飯室地区、久地地区など多くの住民が可部方面へ向かうために利用しており、安佐町にとって重要な基幹道路であるが、飯室地区では日常的な渋滞が発生している。
- ・さらに、宇津可部線（県道267号）や下佐東線（県道177号）も、小河内地区、久地地区、日浦地区などから可部へ向かう際に利用され、国道191号で事故や渋滞が発生した際には可部方面へ向かう代替ルートとして活用できるが、道幅が狭いことなどが問題となっている。

(1) 公共交通機関の充実

① 可部方面行（安佐市民病院等）のバス便の確保

車のない人や高齢者はバスに乗ることになるが、安佐北区役所や安佐市民病院へ行くには乗換えが必要であり、紙屋町など市街地へ行くより時間も運賃もかかるため、直行便が必要である。

- ・JR可部線代替バスの路線変更
- ・八木方面行きバスの可部への乗入れ
- ・緑井方面からのバス（柳瀬止まり）の荒下地区への乗入れ
- ・勝木安古市線（県道268号）を利用した路線の確保
- ・鈴張地区北部の安佐豊平芸北線（県道40号）及び千代田大朝線（国道261号）から可部へのバス便の増便

(2) 道路の整備等

① 国道191号の渋滞解消

救急車等の通行にも支障がないよう、飯室地区の日常的な交通渋滞を早期に解消する必要がある。

② 宇津可部線（県道267号）の道路拡幅

狭隘な箇所を拡幅し、可部方面への車の乗入れを改善する必要がある。

③ 宇津可部線（県道267号）と太田川堤防道路（今後整備）の接続道路の新設

荒下地区の交通緩和を図るため、宇津可部線（県道267号）から太田川堤防道路に接続する道路を新設する。

④ 第二太田川橋の新設

安佐北区全域にとって重要課題である新安佐市民病院周辺の交通アクセスを充実させるため、病院への新たな接続道路として下佐東線（県道177号）を經由して直接荒下地区に行ける橋を架ける必要がある。

⑤ 下佐東線（県道177号）の道路拡幅

狭隘で危険な箇所が多いため、川平、宮野～筒瀬間の拡幅を進め、安全な道路にする必要がある。

2 地域内をつなぐ交通アクセス

- ・安佐町の各地区が一体となったまちづくりを進めるためには、町内の各地区をつなぐ交通アクセスを向上させる必要がある。
- ・特に、広島豊平線（県道38号）や安佐北4区191号線は、小河内や久地などの各地区と可部方面への移動に直結する道路を南北方面につなぐ役割を果たしており、道路拡幅により、各地区から可部方面への移動時間を短縮させる効果も期待できる。

(1) 公共交通機関の利便性の維持

① 路線バスの利便性の維持

高齢化によりバスを利用する人が増えるため、町内での移動に支障がないよう、あさひが丘～宮野～筒瀬～八木駅などのバス路線を維持する必要がある。

(2) 道路の整備等

① 広島豊平線（県道38号）の道路拡幅、歩道整備

狭隘な箇所（小野原、小浜、宇賀井野）を拡幅し、道路の安全性を確保する必要がある。

② 安佐北4区191号線の道路拡幅

久地～三国～毛木間を拡幅し、下佐東線（県道177号）等へのアクセス改善を図る。

③ 安佐北区4区351号線の道路拡幅

野外活動センターを利用するバスなどで交通量が増加して危険なため整備が必要である。

④ 大川橋歩道橋の新設

大雨や大風の時にも通行できるよう歩道橋の新設が必要である。

⑤ 安佐北4区42号線の早期整備

後山～筒瀬間のトンネルを早期に完成させ、あさひが丘団地から東部への移動時間の短縮を図る。

⑥ 安佐北4区77号線の道路拡幅

狭隘で危険な箇所が多いため、毛木～あさひが丘団地間を拡幅し、道路の安全性を確保する必要がある。

⑦ 宇賀大橋の架け替え

大雨や大風の時にも通行できる橋に架け替える必要がある。

⑧ 荒谷林道の道路拡幅

久地～あさひが丘団地間を拡幅し、あさひが丘団地を経由した東部へのアクセス改善を図る。

3 安佐南区方面に向かうための交通アクセス

- ・日浦地区や久地地区、久地南地区では、買物や通院のために安佐南区へ出かけることも多いことから、安佐南区方面への交通アクセスを向上させる必要がある。

① 久地伏谷線（県道77号）の道路拡幅、歩道整備

恵下埋立地建設に伴い大型車両も含めた交通量が増加して危険なため、整備が必要である。

② 広島豊平線（県道38号）の雪対策、歩道整備

冬季降雪時には、幸の神交差点北側の急カーブの通行が非常に困難となるため、除雪や道路拡幅等の雪対策が必要である。また、幸の神交差点～南が丘団地付近の狭隘な箇所について、歩道を整備する必要がある。

③ アストラムラインの延伸（上安→安佐動物園）

行楽時の渋滞対策と安佐動物園の将来的な入場者の増加に備えるため、上安から安佐動物園までのアストラムラインの延伸が必要である。

Ⅱ 暮らしの充実

- ・安佐町からの人口流出を食い止めるためには、交通アクセスを向上させるだけでは対策として不十分であり、生活インフラのほか医療・福祉や防災など多様な面から生活環境を充実させるとともに、住民が地元で働くための産業を維持する必要がある。

1 生活インフラの充実

- ・上下水道や超高速ブロードバンドは、生活環境の充実を図る上で重要な生活インフラであるが、安佐町の一部地区では未だに整備されていない。
- ・特に、超高速ブロードバンドは、IターンやUターン、起業による定住を進めるためにも、早急に環境整備を行う必要がある。

① 超高速ブロードバンド環境の整備

若者の定住や地域内での情報交換を進めるため、超高速ブロードバンド環境の未整備地域（小河内地区全域と久地地区の一部）を早期に解消する必要がある。

② 上下水道の整備

日常生活環境を他地域並みにするため、未整備地区の整備計画を早める必要がある。

2 安心・安全なまちづくりの推進

- ・安佐町では山林が広く分布し多くの河川が谷地を流れおり、平成26年8月20日の豪雨災害の教訓も踏まえて、ハード・ソフトの両面から、水害や土砂災害等に備える必要がある。
- ・特に、危険渓流への堰堤設置や防災情報の提供に重点的に取り組み、安心・安全なまちづくりを進める必要がある。

① 河川の護岸改修

毛木地区、宮野地区では床下浸水の恐れがあるため、早期に護岸の改修が必要である。

② 防災情報サービスの利用助成

防災情報を確実に各戸まで伝達するため、無線放送やケーブルテレビを活用した防災情報サービスの利用料を市が助成するなど、情報伝達網の拡充に向けた検討が必要である。

③ 鈴張集会所の建替え

昭和48年に鉄骨造で建てられた鈴張集会所は、既に耐用年数も経過し、老朽化が激しく、雨漏りもしていることから、早期に建て替える必要がある。

④ 鈴張地区の市有地の有効活用

公園、災害時の一時避難場所等として活用できるよう検討が必要である。

3 医療・福祉の向上

- ・高齢化に直面する安佐町において、高齢者一人一人がいきいきと安心して暮らしていくためには、医療・福祉の水準を高めていく必要がある。

① 近隣で医療サービスが受けられない地区の解消

小河内地区には医療機関が一切ないことから、安佐市民病院等から医師・看護師の派遣を受け、週に1回程度の巡回診療を実施するにより、小河内地区内での医療サービス体制の確保を図る。

② 地域包括支援センターによる在宅介護支援の充実

介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、清和・日浦地域包括支援センターに医師や看護師を配備するなど、在宅介護の支援を充実させる必要がある。

4 産業基盤の維持

- ・地域の主要産業として農林業を振興するとともに、安佐町内に立地する中小企業を支援すること等により、地域の産業基盤を維持していく必要がある。

① 有害鳥獣対策の強化

都市近郊での農業を振興するため、有害鳥獣対策の強化が必要である。

② 中小企業による地域貢献活動への支援

工場が多く立地する久地地区などにおいて、中小企業が地域に密着した社会貢献活動に取り組めるよう、市が地域コミュニティと中小企業との仲介役を果たし、中小企業の活動を積極的に支援する必要がある。

③ 木材利用の促進

戦後に植林された森林資源が伐採・販売の適齢期を迎えているが、需要や価格の低下により十分に利活用されていないことから、公共建築物に木材を使用すること等により、木材利用の促進を図る必要がある。

Ⅲ まちの魅力度UP

- ・住民が地元へ愛着と誇りを持ち、ずっと住み続けたいと思えるまちを実現するため、安佐町ならではの特色を生かしたまちづくりを進める必要がある。
- ・また、まちの魅力を広くPRし、他地域の住民との交流を進めることで、地域内に移住者を呼び込む効果が期待できる。

1 地域資源の有効活用

- ・釣りや川遊びの場として親しまれる太田川、貴重な植生を残す山林など、豊かな自然環境は、安佐町に残された貴重な地域資源である。
- ・また、未だ十分に活用されていない既存施設等を最大限活用することができれば、安佐町の魅力を更に向上させることができるため、特に、長沢工業団地用地や小河内小学校跡施設の有効活用に優先的に取り組む必要がある。
- ・さらに、人口流出により生じた空き家子育て世代の住替えに活用するなど、地域の弱みを強みに替える新たな定住支援策を実施することで、地域の活性化を図る必要がある。

(1) 自然環境の有効活用

① 太田川の水質改善と水量確保

広島県のシンボル太田川は、年々水量が減少し水質の悪化が心配されている。太田川を再生しアユなどの資源を増やすため、水質改善と水量確保に取り組む必要がある。

② 山林資源の活用

宇賀峽や権現山などの山林を高齢者でも手軽に登山が楽しめる場として活用するため、市の支援のもとで住民が主体となった登山道の整備を進める。

(2) 既存施設等の有効活用

① 長沢工業団地用地の有効活用

「ひろしま市民の里@安佐」の整備・活動状況を地元へ適宜報告し、地元の意見を積極的に取り入れるとともに、事業計画を前倒して実施することで、地域内外からの多くの住民が交流する場として有効活用する必要がある。

② 小河内小学校跡施設の有効活用

小河内地区を再生するためのまちづくりが実現できるよう、旧小河内小学校の設備（校舎、グラウンド、講堂、プール等）を、地元で検討を続けている活用方針に基づいて有効活用する必要がある。

③ J R安芸飯室駅跡地の有効活用

地域内や都市住民との交流拠点として、引き続きカフェなどとして有効活用していく必要がある。

④ J R小河内駅跡地の有効活用

河川改修事業が完了したため、まずは地域住民が利用できるようにするとともに、災害時の避難場所、ヘリポート、道の駅、交流ひろば等としての有効活用を検討する必要がある。

(3) 空き家等の有効活用

① 空き家の流通促進

あさひが丘団地をモデル地区として、多数発生している空き家の流通を促進し、子育て世代の住み替えにつなげる。

② 日浦小学校、日浦中学校の小中一貫校化

小学校と中学校が隣接する特色を生かして、小・中学校の施設を共用するとともに、9年間を見据えた一貫性のある教育課程を実施するなど、教育環境を良くし、子育て世代の移住・定住につなげる。

③ 空き家を活用した住民サロンの開設

あさひが丘団地をモデル地区として、地域住民の活動・交流の場として空き家を活用し、空き家の解消とコミュニティの活性化につなげる。

④ バス通りでの花いっぱい運動の実施

あさひが丘団地の景観を良くしてまちの魅力を高める。

2 地域外の人との交流促進

- ・安佐動物公園や野外活動センターなどレクリエーションや学習を目的とした施設は、他地域にはない安佐町ならではの魅力であり、他地域からも多くの人を訪れている。
- ・これらの魅力に磨きをかけるとともに、安佐町での交流や定住、体験活動に関する情報を広くPRし、交流人口の増加や移住希望者の受け入れを図ることで、地域の活性化につなげる必要がある。

(1) レクリエーション施設等による交流促進

① 安佐動物公園の大型駐車場の新設

安佐動物公園の活性化とあさひが丘団地周辺の渋滞緩和のために、安佐動物公園に大型駐車場を新設する必要がある。

② 野外活動センターとの連携による地域活性化（学生ボランティアとの連携など）

子どもたちの自然体験活動の場である野外活動センターと連携してまちづくり活動を行い、子どもたちやボランティアの大学生など若い世代との交流を進める。

③ 女子ホッケーチーム、社会人野球チームと連携したまちづくりの推進
コカコーラウエストレッドスパークスやＪＲ西日本社会人野球チームの練習場は他地域にない魅力であるため、連携してまちづくりを進める必要がある。

④ あさひが丘団地と安佐動物公園が一体となったまちづくり（接続道路の新設）

安佐動物公園裏門とあさひが丘団地２区を結ぶ道路を新設し、団地住民が散歩感覚で入場できるようにするなど、まちの魅力を高める必要がある。

(2) 情報発信や体験活動による交流促進

① 首都圏等の地方移住希望者への情報発信

地方移住に関心を持つ人が増えているため、ホームページなどを利用して首都圏等へ情報発信し、ＵＩＪターン希望者の受入につなげる。

② お試し暮らし体験や農業体験の受入

農村での暮らしや体験活動に興味がある都市住民との交流を進め、地域の活性化や移住者の受入につなげる。

安佐地域のまちづくりに向けた取組

